

13 施設・設備

2005年度以降に設定した目標

1. 既存教室のAV化→「研究設備・装置を充実する」に変更
2. PC教室の増設もしくはレンタルラボの増設→「情報機器および教材提示装置を充実する」に変更
4. 共同研究室等の管理体制を整備する」を追加

進捗状況報告

総合心理学心理学領域における学術フロンティア推進事業に伴い、行動観察・解析システム、末梢反応記録システム(2004年度)、行動実験画像データ取得解析システム(2005年度)、行動観察・データ記録解析システム、デジタル脳電位計測システム(2006年度)を導入した。行動観察・解析システムでは、行動観察・記録・再生・解析の一体化した設備を設置することにより、さまざまな臨床教育介入プログラムを作成し、データの信頼性と妥当性の検証を行うことができる。末梢反応記録システムは、VR(バーチャルリアリティ)事態で自律反応などの複数の被験者の末梢反応を同時に記録するシステムである。それらの反応は、既存の生体反応計測装置に接続し、そのデータを電子媒体と紙記録媒体に記録する。行動実験画像データ取得解析システムは、実験課題実施中の被験者の行動や表情などの実時間画像データを取得し解析できる。行動観察・データ記録解析システムは、ネットワーク化することで、データの収集・加工・分析・出力を一連の動作の中で可能にする統合的なシステムである。デジタル脳電位計測システムは、高性能で、ノイズも少なく、64チャンネルの脳電位を計測できる。

これらの機器の導入によって、心理学領域の研究が一層推進された。

情報機器および教材提示装置の充実については、学部と同様、教育・研究資料準備室で対応している。パソコンの貸し出しは、学生については基本的には短期(一日)であるが、教学補佐については、研究室管理業務を担っていることから、長期(セメスター単位)も行っている。

研究室の管理体制については、年度始めに各専修代表を管理責任者と定め、実質的に日々管理を行う各専修所属の教学補佐への指示徹底・教育を依頼している。

学内第三者評価

情報機器の整備が進められていることが評価できる。教室の利用環境の向上のためには、全学的な施策が不可欠である。